

難治性の持続性特発性顔面痛

Persistent idiopathic facial pain: PIFP（非定型顔面痛） に対してエイトと漢方薬併用にて疼痛軽減した症例

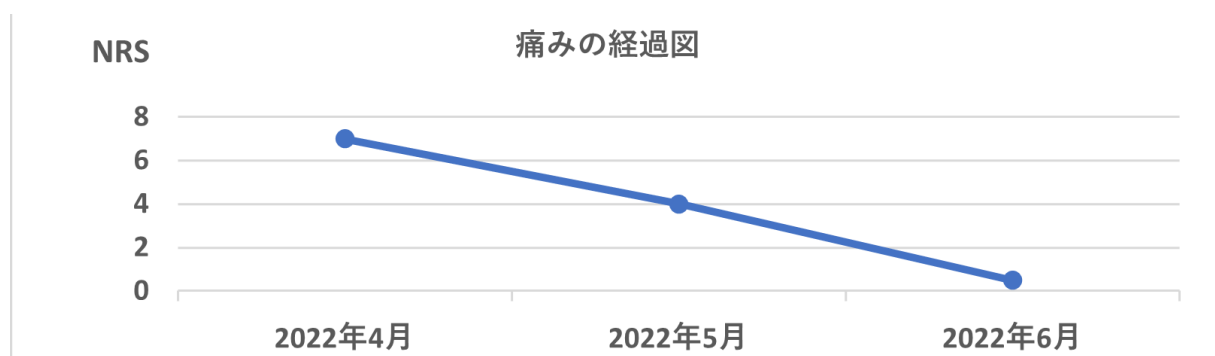


園ペインクリニック
院長 松本 園子 先生



症例患者Y・A

- ◇ 63歳女性 157 c m 66kg 以前薬局に勤めていた
- ◇ 上顎の痛み、頬部の痛み、頭痛、目の奥のしみる感じ
- ◇ 既往歴：子宮頸がん
- ◇ 2年半前より、上記主訴出現
- ◇ M病院にて入院後トリプタノール70mgを用いて治療した。
ふらつきなどの副作用により、治療が継続できなかった。
- ◇ T院にてランドセン内服だけ少し効果あり
- ◇ I 眼科では異常なし 漢方薬治療を勧められた
- ◇ 2023.4 当院初診
頭痛に対して後頭神経ブロック、柴胡疎肝湯処方
- ◇ 2週間後 NRS7/10
吐き気が治まっている、食欲が出始めた
加味逍遙散に処方を変えてエイト勧める
患者は旅行を予定しており、早期に治療したい旨要望を受けた
- ◇ 2023.5 NRS 4/10
エイトを始めて頭痛が軽減したが、目の方がまだつらいと患者のコメント
- ◇ 予約キャンセルになった
- ◇ 2023.6 NRS 0-1/10
電話にて、治療必要ないので通院不要になった



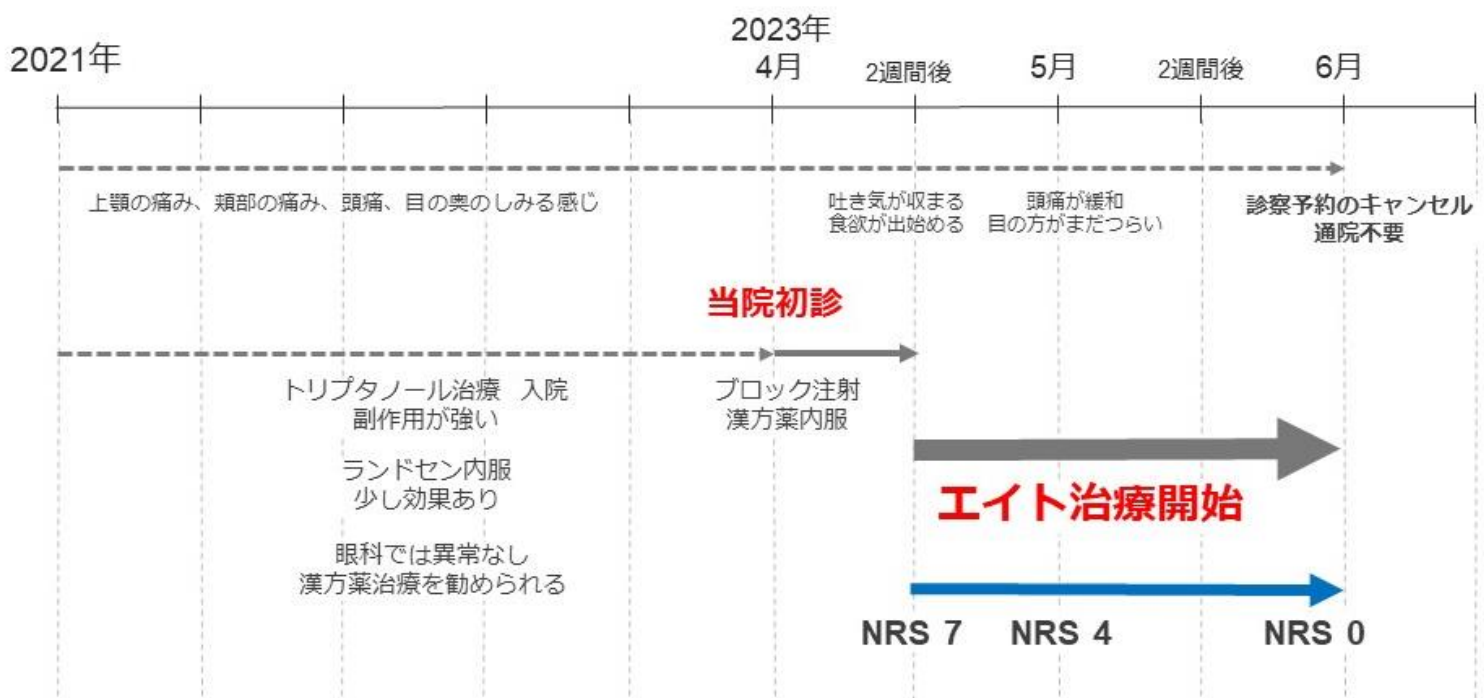
エイトを導入する～してからの印象

遠方から、知人の紹介にて旦那様の運転でいらした。初診時は、訴えも多岐に渡りメンタル的に気鬱が強く見られた。東洋医学的所見としては、腹直筋が堅くなっており、長期間の痛みによる交感神経の緊張と考えられ、柴胡疎肝湯（四逆散＋香蘇散）を処方した。ブロック治療と漢方治療で7割の痛みになったが未だに訴えも強いため、処方を加味逍遙散に変法し、エイトを勧めた。本人は、エイトに関しても不信感があったが、「はい、やってみます。」とパンフレットを持ち帰る。数日後から始め、次の予約のキャンセル連絡あり。次回予約は要らなくなったとのことであった。

エイトを紹介するときのポイント

この患者は初めエイトについては否定的で、「これはなんなの、ほんとに痛みに効くの」と言っていた。実は私もそこまでエイトに精通しているわけではなかったの、強く勧めることができなかったが、今思うと「必ず効くと私は思う、Aさんみたいな方もよく治ってきているから」などと、自信をもって勧めることが出来ていたらもっと早くからエイトを始めていたかもしれないと思う。

經過 顏面神經痛



持続性特発性顔面痛 Persistent idiopathic facial pain: PIFP（非定型顔面痛）について

以前、非定型顔面痛といわれていた。

病態は原因不明、症状は神経痛の特徴を持たず、持続的であり左右片方の顔に痛みがある、三叉神経痛とは異なり、発作的な痛みではなく持続痛である。治療としては抗うつ薬・抗不安薬・抗てんかん薬が推奨されている。以前はSGB（星状神経節ブロック）を治療と書いている本もある。

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスII

（管理医療機器 特定保守管理医療機器）



株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL contact@p-mind.co.jp